

# 信州読書会 ツイキャス読書会

## 課題図書 ジョージ・オーウェル『動物農場』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。  
(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

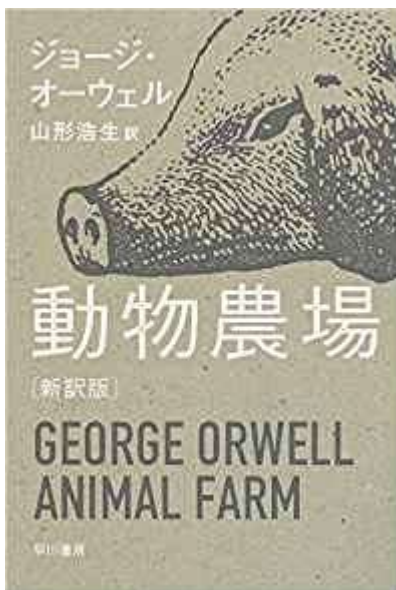
『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cggd7mrf>

(各回の感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張っております。)



第 52 回のツイキャス読書会の課題図書は、ジョージ・オーウェルの『動物農場』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

## 動物農場から校庭へ出る

ジョーンズさんは、飲んだくれ。共感。読み進めると豚たちも飲む。この楽しみ、やめられない。歯止めがきくのは、他の快樂があるときか。農場の動物たちが立ち上がった一連の行動の始めは、理想の実現を夢見る快樂か。

私は、小学校の学級会を思い浮かべた。5・6時間の授業が組まれている学校という閉じられた一日の中で、休み時間以外にこのクラスで自分たちの自由にできるのは、朝のレクレーションの時間ぐらい。だから、男子も女子も楽しいと思えることを企画したい。先生はその声を拾って一学期に学級会を開く。多くの男子はドッチボールがしたい。ある女子のグループと男子の一部は、ボールを当てられると痛いからいやだ。やりたくない。でも、クラス全員でやろうという理想。みんな仲良という理想がある。隣のクラスと違う価値を作ろうとって始まる学級会の時間。この過程で、声の大きい男子の声が広がる。相手にボールを当てる時は弱くする。一人ばかり狙わない。いくつかの約束をクラスで共有する。さあ、だからドッチボールをしよう。

次の日、校庭では朝レクのドッチボール。先生は見守っている。昨日の約束はある。けれど、やはり速いボールが飛び交うコート。みんなが楽しめている時間ではない。内心、変だなと思いながら、ではもう一度学級会を開こうという声は、このドッチボールの最中には上がらない。みんなで決めたことだから。男女仲良いクラスという見かけの景色に、これは自分のクラスの成果だという満足が先生にさえも漂って。

三学期までに、このクラスは学級会で朝レクの現状を見直すのだろうか。最初の合意形成は、大きい。はじめの一步は、不本意な結果になっても、参加した小学生にとっては大きいのだろう。この動物農場で風車を造るボクサーの一步のように。

18歳の選挙権が認められ、すでに二度の国政選挙が行われた。政治的教養の授業の取り組みも始まっている。

(おわり)

## 『動物農場』 感想文

私は動物たちが主な登場人物だから少しホッコリした気持ちで読めると思っていたら、大間違いで何度も恐怖を感じました。

私はこの登場人物で自分に一番近いのはモーリーかなと思いました。

反乱の事とかよく分かっていなくて、反乱のあとにも砂糖はあるのかしら？と聞いていたところが面白かったし、リボンの事やお砂糖の事、自分の身の回りの事を私も心配してしまうと思いました。

それに、動物農場の他のみんなのように苦しくても自分達の自由のために身を粉にして働くことはできない気がします。

私やモーリーはまだ反乱から背を向ける感じだけど、ボクサーはみんなの為に一生懸命働いて頑張っていたのに、頭が良くないから悲しい結果になってしまって読んでいて辛かったです。

人間であっても動物であっても支配する側と支配される側に別れるのは自然な事で避けられない事なんだなと読んでいて改めて思いました。

ジョーンズを追い出して自分たちで農場を経営しているという誇りはあるけれど、でもみんなは本当に幸せなのか疑問に思いました。

まだ、スノーボールがいれば独裁的な支配ではなくもう少しマシな世界になっていたのかもしれないと思う。

同じ考えでみんなが同じ方向を向いていれば何事もスムーズに進むのかもしれないけれど、それと同時に間違った方向に進んでいって誰も変なことに気づかずに騙される事の怖さが心底伝わりました。

(おわり)

## 犬は従順。人は愚盲。

1945年にイギリスで出版された「動物農場」は、寓話のスタイルをとった独裁政権、普遍的に繰り返される権力への批判であるが解説にもあるように、数社の出版社から刊行を断られている。大戦下のジャーナリズムが、どこまで自由に報道できたかを想像するとあきらかにロシア批判であるこの本を出し渋るのは当然のことだったろうと思う。ジャーナリストとルポライターとしての目線があつてこそ、この小説は生まれた。

わたしがこの話の中で一番恐ろしいと感じたことは、「教育」の部分。

親犬が死んだあとの九匹の仔犬たちをナポレオンがほかの動物たちから隔離し、自分の思想のみで教育し、すっかり独裁政権の秘密警察に仕立ててしまう。

犬は、そこそこ文字を覚えられる種類の動物だったのだが、七戒以外ものを読む気はまったくなかった。

従順で無知。だからこそ幼いころからの教育次第でいかようにも洗脳できたのだ。

モノを知らないということに加えて、自分で考えることをしないことがいかに怖い武器となってしまうかを、背筋が凍る思いで読んだ。

戦争は平和である。自由は隷属である。無知は力である

そして人間が一番愚かな動物であることを、わたしたちはもう一度検めるべきだと感じた。

そして。ジョージオーウェルが若きころ、スペイン内戦に参戦した1936年から80年余りが経った。

カタルーニャの混迷は続く。哀しい哉、歴史は繰り返す。

(おわり)

## 動物農場 読書感想文

皆さんこんばんは。会社組織などでリーダー的な立場にある方、またはそれを目指している方。組織の規律を高め、より少ない労働力や投資で最大限の利益を上げたい、または上げるように迫られているそんなあなたに、とっておきの書籍を紹介いたします。ご注文いただいたお客様には素敵な特典もご用意しておりますので、最後までお聴き逃しなく。

それではこの本に書かれている内容を少しだけ紹介いたします。

組織を率いていく上でまず重要視してほしいことは、組織内の空気です。会社の為に、尊敬するリーダーの為に自己を意識させず妄信的に働くことは日本人には大変合っています。

具体的な方法として、組織や部署の外に敵を作る。このことにより目標がはっきりわかりやすくなります。それまで「目の上だったたんこぶだった人」や、古い慣習がこれに当たります。敵と位置付け、あの頃に戻ってもいいのか？と試してみましょう。人は誰しも状況を改善させたいと思うものですし、根拠がなくとも具体的な数字を見せられれば納得するものです。

空気づくりに大事なものとして教育が何より必要です。

教育を受ける側は2つに分け、一つはあなたに近い人（家族、同じ大学出身など）で難解なことに対処できる高等な頭脳の持ち主。

もう一方は難しいことはわからなくとも、肉体を酷使できる人。彼らには短くて明瞭な決まり事や目標をなるべく少ない数で与えましょう。

極端な話「〇〇は良し、〇〇はだめ！」と一言に要約しても構いません。それを徹底的に復唱させましょう。また、歌にして覚えさせ、集団で歌わせるの気持ちを鼓舞させるので大変有効です。

両者とも時には褒美を与えるべきですが、この場合は物よりも役職や称号が向いています。SNSの「いいね」もそれに当たるでしょう。

組織内に不和が生じ規律が乱れることは事前に避けなければなりません。貴方の思想に意見してくるものがあれば追い出し、彼が組織を去った後もその存在を恐ろ的なものとして利用しましょう。デマを吹聴する役割の人もいるといいでしょう。鋭い牙をもった犬のように威圧的な態度の人で周囲を固めるのもいいでしょう。万が一組織内に不和が生じたらその原因がどんな些細なものでも糾弾し、皆が見ている前で処罰するといいいでしょう。

このように空気を作り上げることでリーダーたるあなた、または会社はいつも正しい。悪いのは働く自分達社員で、社員自らがもっと会社の為に働こう、という好循環が生まれます。

部下が過労で倒れても代りのものを補充すればいいのです。

そうすれば誰もが平等でなく、皆が持っている能力以上に働き、強き者が弱き者を管理できる組織が完成します。

他にも内容盛りだくさんの本書、今なら同志ナポレオンやスクウィーラー、メイジャー爺さんの演説、イギリスの家畜たちよ等が収録されたCDと、CDプレイヤー内臓のかわいい豚の抱き枕をセットでお届けいたします。

お申し込みは 444-244 4本足良し、二本足もっとよし まで。

なお、効果には個人差があります。

(おわり)

エヴァタさんのブログです。弱視目線 <https://blogs.yahoo.co.jp/childrenkaneyou>

## 動物農場 感想文

私は某企業に勤める会社員だ。先日の会議で私の部署は今まで割り当てられなかった仕事をさらに課せられる事になった。少し騒つきはしたが、もう決まった事なら意見しても通る事はないし仕方がないとみんな大人しい。

なぜそうなったのかすら無関心な社員もいる。物語の中で、動物達がナポレオンに対して不可解に思いながらも意見ができず、ただ従うしかない事に苛立ちを覚えたが、私も同じではないか、と会社での自分の立場を思った。

ではどうしたらナポレオンが冷酷な独裁者に成長するのを阻止する事が出来たのだろうか？文字の読めない動物達は、最初の七戒をナポレオンの都合のいい戒律にすり替えられ、情報を操作されていることに気がつかず、詭弁にまるめこまれてしまう。

文字が読めたベンジャミンがナポレオンの陰謀を動物達に伝えてみんなで結束し、力の強いボクサーが中心となって戦えば、太った運動不足のナポレオンなんて簡単に倒せたはずだ。

しかしベンジャミンは傍観者に徹して問題にかかわってこない。私はナポレオンと同じくらい彼は罪深いと思った。ベンジャミン以外の動物は文字を理解する知能がなかった。

私達の社会にも様々な立場の人がいる。社会的な弱者は安心した暮らしを送れないのだろうか？

ナポレオンのような人格の指導者はみんなを不安にさせ、ナポレオン自身も反乱に怯えて暮らす信頼関係のない社会をつくる。

良い指導者とは社会を豊かにすると同時に道徳心が備わった人物だと思う。理想論かもしれないが、強いものや知恵のあるものは、弱者をまもり、弱者は自分のできる能力を最大限に使って貢献する事が望ましい社会だ。

私達人間は教育をうけ知恵がある。私自身も、もっと会社でしっかり意見をもたなければと動物農場を読み終わって思ったが、「意見を言うと飛ばされるんだよね。」と一線からしりぞいた、尊敬する先輩の声を思い出した。やっぱり理想論なのかもしれない。

(おわり)



# 「動物農場」感想文

～私の好きから嫌いランキング～

1位ボクサー 2位クローバー、スノーボール 3位モリー 4位ナポレオン、ベンジャミン 5位スクイラー

\*1位をボクサーにしたのは、彼の優しさ、人を疑わない純粋さが好きだからです。

私は疑い深いところがあるので、彼は憧れの人柄です。その上努力家で根気強く、素晴らしい性格の持ち主だと思いました。けれども、その美しい心のため騙されてしまいました。文字が読める能力があったらと、残念でたまりません。

\*2位は2人います。クローバーを選んだ理由は、ボクサーと同じです。彼女は時々おかしいことに気づいたのですが、記憶力がないために騙されました。でも何とか長生きできて良かったです。

もう一人、スノーボールを選んだ理由は、彼がとても勉強家だからです。多くの本を読み、風車の設計図まで作りました。それから仲間の幸せを一生懸命考えたり、口だけでなく、銃に自ら立ち向かっていった正義感が好きです。

\*3位はモリーです。理由は自分に素直だからです。彼女は自分の好きなように行動しました。自分勝手に思いますが、自由がどんどん制限されていくこの話の中では、仕方のないことだと思います。彼女は自分で自分に合った幸せを選んだという点で賢いのかもかもしれません。

\*4位はナポレオンとベンジャミンです。ナポレオンはこの話の中では悪役です。

とてもずるく、抜け目のない男です。自分の利益のためには悪知恵が働き、みんなを騙すことも平気でしました。私は途中で何回も腹が立ちました。でも人間は大なり小なり可能な利権が目の前にあると、手に入れたくなるものだと思います。ナポレオンの場合はひどすぎますが、近い人は多くいるでしょう。

また、私は同じ4位にベンジャミンも選びました。彼は事なかれ主義の人物です。自分に火の粉がかからないように生きています。これは、彼が人を信じていないからだと思います。過去に何かそうなる経験をしたのかもかもしれません。頭も良く、字も読めたのに、知らん顔していたから、好きだったボクサーまで死んでしまいました。積極的に悪いことはしていませんが、心は悪人に近いと思います。この部類の人間も世の中には多そうです。残念ながら私もこの部類に入りそうです。

\*私が最も嫌いなのは、スクイラーです。彼は戦いの時に姿を消したり、働かなかったり、ナポレオンの命令通りに嘘をみんなに伝え、その恩恵にあやかったり、とても小賢い性格です。強者の保護の下でちゃっかり威張って生きています。他人の幸福なんて彼は考えてもいません。自分のことだけです。ナポレオンのような主体性もないし、私はこの生き方は恥ずかしいなと思いました。

以上が私のランキングですが、読書会の皆さんはどんな順位でしょうか？（おわり）



## 『愚かなの？わざとなの？』

ロバの老ベンジャミンの言動が気になる。動物農場で、ベンジャミンはブタたちに負けにくいくらい読み書きができる。しかし、その高い知性を現実的に何かを解決したり動かしたりに振り向けることはなかった。

風車の問題で、農場がスノーボール派とナポレオン派の二つの派閥に分かれた時も、ベンジャミンはどっちの派閥にもつかなかった。風車なんてあろうがなかろうが、生活は昔と変わらずひどい状態が続く、と一人達観している。ただ、ロバは長生きするのだという謎めいた言葉以外は何も言わない。

月日が経っても、昔とほぼ変わらない出で立ちのベンジャミンだったが、農場の仲間が驚愕するほどに取り乱したことが一度だけある。ボクサーが解体業者に連れ去られようとしている時だ。ベンジャミンにとって、「労働こそが幸福である」という一本筋を通した生き方を体現しているボクサーは、悩ましくもあり、かつ愛する存在だったのである。

ベンジャミンの在り方を、どう解釈したらいいのだろう。「知っていて何もしない？」「能ある鷹は爪を隠す？」

私は「自由」の概念理解に乏しいが、食物連鎖の頂点に君臨する人間でも、その生活において完全に自由を享受するのはありえない中で、ベンジャミンは、支配する側とされる側のそのどちらにも回りたくない、知性はあれど自分の命を無駄に使いたくない者の願望を、反映した存在ではないかと思う。私ならどの動物になりたいかと考えたとき、ブタにはなりたくない、特にスクウィーラーには。ボクサーは格好いいけど、あんな最期を迎えるのはつらい。知性を備え、何とか自分の生活を維持しつつどこにも染まらず長生きしているベンジャミンの生き方なら、選択できるかも知れない(知性があるかは別にして)。

ボクサーの死以来ますます気難しく寡黙になった老ベンジャミンだったが、晩年になって初めて自分のルールを破った。クローバーに、壁に書かれた戒律を読んでやったのだ。

老ロバ・ベンジャミンは、どんな思いを胸にこの世を去るのだろうか？インタビューでもしたい気持ちだが、ベンジャミンらしく、誰にも胸中を明かすことなく生涯を終えるのだろうか。

(おわり)

belouga さんのブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

『アラフォーbelouga のつれづれ』 <http://ameblo.jp/clearmandarin/>

## 『 魔物から怪物へ 』

この物語が痛快なのは、農場の動物たちが人間たちを追い出したところまでだった。

人間の搾取に気がついた動物たちが豚を指導者に、「平等」な世界を目指して平和な農場を作り、めでたしめでたし…とはいかなかった。ただの寓話では描かれないその後が背筋を凍らせる。

農場に見立てた社会主義革命後のソビエトが腐敗してゆく様を描いた物語だが、これがソビエトだけの話だとはどうしても思えない。

老豚メイジャーの主義思想を受け継いだ若き雄豚ナポレオンとスノーボールが、反乱を主導し実権を握る。最初は「権力」という魔物に魅入られた雄豚たちが、覇権者としての「怪物」になっていく様を、悲観的な思いで読み進めていた。しかし、はたとそうではない違和感が途中から私を襲ったのだ。愚かなのは雄豚たちではなく、指導者を「怪物」に仕立ててしまった他の動物たちではないか。頭が悪いことを「労働」で補おうとするボクサー。七戒が都合よく書き換えられていることを、字が読めないことを盾にそれ以上考えない他の動物たち。確かに、自ら考えないで従うことは楽なのだ。そのことが指導者を益々愚かにしていき、取り返しがつかない。自治とは、他人の統制に縛られずに、自らの規範や目的に沿って行動できることだ。ただ哀しいかな、それには自己の意志を具現化できる能力が必要だった。動物たちが自らの能力を省みることができなかつた悲劇だ。

それは、ソビエトだけの問題ではない。日本でも現在、長期政権だ。安定というメリットもあるが、デメリットもある。選挙で信任された直後に、控除から外されるものが増えて賃金に影響したり、某獣医学部の認可がひっそりと下りる。動物たちでいえば、豚だけが肥え太り、他の動物たちは配給が減り、労働だけが増える。でも、それもこれも自らの眼で見て、自らの頭で考えて、声を上げなかったことに由来するのだ。自らが変わらない限り、指導者をいくらすぐ変えても同じだ。ナポレオンが人間に見えるのも当然の結果だろう。自らの指導者が「怪物」にならないように、動物農場の動物たちのように愚かにならないように、自らを戒めることが…一番難しい。

(おわり)

岡山読書会のブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

## 「改憲は良い、護憲はダメ」

動物たちみんなで起草した七戒は、自由と平等を保証する、いわば動物共和国の憲法だった。民主主義ならぬ動物主義の原理が記されていた。

しかし、ベッドのシーツの件を皮切りに、七戒は、独裁指導者ナポレオンの都合のいいように、ひそかに改憲された。気の毒な動物たちは文字が読めなかったから、改憲に気づかなかった。

ウシ小屋の戦いで、英雄となったスノーボウルは、クーデターによって追放され、国家反逆者としてレッテル貼りされた。都合の悪いことはすべて彼のせいにされ、彼の風車建設計画は、ナポレオンに横取りされた。

やがて、ナポレオンに歯向かうものは、処刑され、労働に従事しないイヌとブタの腐朽官僚制度が整った。

こうして、国家権力は腐敗する。

解釈改憲や、排外主義、歴史修正、この政権下で起こっていることは、動物農場の出来事と無縁だろうか。

権力の腐敗が、一部の者たちだけの利権の平等や自由の正当化というお笑い草を演じている。権力への自発的なおもねりによって権威主義がはびこり、デモクラシーに機能不正がもたらされている。選挙の投票率がどんどん下がっている。

権力批判は、まるで「四本足はよい、二本足は悪い」の羊たち大合唱でのような茶番で、かき消されていた。

2017.10.21 の夕方、秋葉原に乱立した日の丸と怒号のような歓声のなか安倍総理の候補者応援演説が行われた。シニズムに侵されているインテリ諸君は、ベンジャミンのようにタメ息をつかざるをえなかった。(私も、タメ息をついた)

我々は、七戒を読めない動物を、笑うことができるのか。

国民主権、平和主義、基本的人権の尊重をうたった我々の民主主義の七戒である日本国憲法は、改正されて納屋の奥にうち捨てられるようとしている。

ボクサーは国家のために、身を粉にして働いた。ナポレオンは正しいと、純粹に信じていた。動物共和国の理念に最も奉仕した彼が、死を目前にして馬肉処理業者に引き取られていく姿は無念だ。

次に、馬肉のように処理されるのは、我々の平和を愛する勤勉な仲間の番ではないか？

(おわり)

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

## 動物農場を訪れる前

ジョージ・オーウェルという作家に、これまで3度出会いました。3度目の出会いが、『動物農場』です。3作品につながりを感じています。出会いの一度目は、『カタロニア讃歌』。筑摩書房のノンフィクション全集に収録されていたので手に取りました。この全集のなかで『カタロニア讃歌』という作品は、かっこよくて読み易いという印象でした。ヘミングウェイやピカソ、写真家のロバートキャパなどの登場人物と、フランコ將軍といった歴史的人物が、活写されていて、思春期の私の印象に残ったのを憶えています。黄色いボックスの全集シリーズは、素敵な父からの贈り物として、心の中で今も大事にしています。

2度目は、就職して最初の職場で、ある年配の方から借りて読んだ『1984』でした。早川文庫の手触りが珍しかったです。この年配の先輩はエヴァンゲリオンが好きで、ツルゲーネフの『初恋』がこのアニメの根っこにあると言っていて、親しみを感じました。借りて読んだ『1984』のインパクトは強く、2回、読みました。どことなく、秋の枯れた恋愛。ビッグブラザーは、イメージが遠くて自分の想像が届かない。イチョウの黄色い葉が夏の日の、太陽の光の直射の下、海辺にて寄せては引く波間を想像させないように、遅れてきた青春を正面からの光では見ることができない自分の心の代わりに、斜光でようやくその白い足元を見せてくれたような印象が残りました。つまり、眼鏡が曇っている状態。視るというより淡く感じる事ができたという読後感でした。しかしながら、作品の光は、確かに心に届いたと思えました。

早川文庫は、その後、書店に行った際に眺めるようになりました。カズオ・イシグロさんの作品群に出会えたのは、ジョージ・オーエルののおかげです。

そして、時が流れ信州読書会さんのサイトを知り、たくさんの素敵な本に出会うようになりました。『動物農場』を手に取り、ページをめくりました。

（おわり）